新城工場 CSRレポート

新 城 工 場　事業内容： 乗用車用タイヤ製造
敷地面積： 221,000m²
従業員数： 1,389人（2014年2月末現在）
所 在 地： 〒441-1343　愛知県新城市野田字古屋敷1番地
新城南工場　事業内容： 乗用車用タイヤ製造
敷地面積： 111,003㎡
従業員数： 439人（2014年2月末現在）
所 在 地： 〒441-1338　愛知県新城市一鍬田字大入10番24号

相談・苦情などの受付窓口：
業務課　TEL：0536-22-2251　FAX：0536-23-0353

新城工場

新城南工場

工場長ご挨拶

城川　隆

新城工場は「トップレベルの環境貢献企業」を目指す横浜ゴムの中核工場として、環境に配慮した工場運営に努めています。当工場では環境貢献商品である低燃費タイヤのBluEarthなどを生産する一方、千年の杜活動において工場周囲に自ら育てた苗木を植樹するとともに、地域や他企業にこれまで約12万5千本の苗木提供や植樹支援を行い、地域の方々と環境を保全する活動を行っております。

当工場はタイヤ生産を行う過程で、地域の水資源を大量に利用しています。「自然の恵みをもらうばかりでよいのだろうか?私たちに出来ることは何だろうか?」との思いで、工場敷地内に従業員がビオトープを造り、また清流豊川の水源地や工場排水口で生物多様性調査を行いました。今後もこのような生物多様性保全活動を継続し、豊な自然や水資源、そこに住む生物を守る活動を続けて行きます。そして生物多様性保全活動でわかったことや工場として取り組む活動を皆さまにお知らせしてまいります。

工場が所在する新城市とも環境保全協定を結び、工場排水の水質検査、騒音測定などを実施し、地域の一員として生活環境に配慮した工場運営をしております。また、新城市の防災協力事業所に登録し、万一大きな災害が発生した時には工場敷地に避難所を開設し、人的協力や工場施設の提供をすることになっています。

工場敷地内のゴムラ公園を一般開放し、地域の憩いの場としてご利用いただいたり、近隣の小・中・高校生の皆さんや工場見学をご希望される方々の見学受入れや、地域の区長の方々との懇談会を通じて、工場の取り組みを紹介したり、さまざまな意見をいただくことで、地域に根ざした工場運営を行っています。これからも、地域社会の一員として、皆さまと共に地域に貢献していきます。

組織統治

コンプライアンス教育の実施

管理・監督者に対するハラスメントセミナーを開催し、人権の尊重や男女平等の推進に関する教育を実施しています。
また、取引先とのCSR勉強会を開催し、社会貢献活動や法令遵守を再認識する事で信頼関係の強化に努めています。

人権

人権に関する取り組み

行動規範
横浜ゴムグループ社員「行動規範」を全従業員に配布し、啓発に取り組んでいます。

障がい者雇用の推進

2013 年度は新たに 1 人を採用しました。結果、2013 年末時点で 19 人（雇用率 2.14%）が就業しています。また、障がい者への職場体験実習の場を提供しました。今後も引き続き、障がい者雇用の拡充と職場環境の充実に取り組んでいきます。

労働慣行

安全衛生への取り組み

従業員、協力社員の安全と健康の確保が企業活動の基盤であるとの認識のもとに、安全、健康で快適な職場を実現するための手段として、JISHA（中央労働災害防止協会）方式適合OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証取得から2年が経過しました。
このマネジメントシステムを適切に実施運用することに加えて、2014年に更新継続ができるように、従業員はもとより協力社員を含めた全構成員の協力や意見提起を頂き、5S活動を基本として、安全衛生活動を推進しています。
2013年は、管理者と監督者の強力なリーダーシップを前面に掲げて、従来の活動に新たな取り組みを加えて、以下のような活動を展開してきました。

- 新城工場安全衛生委員会・南工場安全衛生委員会（各1回／月）
- 協力業者環境安全分科会、労使協議会、安全担当者会議（各1回／月）
- 工場トップによる安全フォローの定例実施
- 過重労働の管理強化
- 過去に発生した災害の振り返り

従業員の教育・訓練

従業員への安全教育に関しては、入社時の安全衛生教育に始まり、役付者による従業員への1対1教育、体感訓練、リスクアセスメント実践研修会、KY（危険予知）大会、安全マン認定育成訓練を中心に展開しています。

災害時の対応

災害時の対応は、防火・防災年間活動計画に沿って、定例的な防災避難訓練を実施しています。訓練時には、自衛消防組織本部を設置して、消火訓練や救出訓練を実施し総合的な対応が取れるよう訓練しています。また新城消防署との合同消火訓練も定期的に実施しており、本年も9月に実施しました。そのほかの取り組みについては以下のとおりです。

- 地震防災訓練
- 油流出処置訓練
- 救急救命技能講習…30人受講

環境

横浜ゴム株式会社　新城工場　環境方針

新城工場は、「トップレベルの環境貢献企業」を目指す
横浜ゴム株式会社の中核工場として、その先駆けとなります。

（1）心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献し、先手管理により「環境汚染・感覚公害の予防」と「環境を保全する改善」を継続的に実践します。
（2）新城工場を構成するすべての部門・関連企業は、自ら定めた環境マネジメントシステムに従い、仕組みを作り、維持し、環境経営の持続的向上を実践します。
（3）関連する法令・条例・協定・契約等を遵守し、全ての関係者の皆様とのコミュニケーションを深め、地域貢献と社会貢献に取り組みます。
（4）エネルギー・原材料・水等の限りある地球資源を守るため、そのムダ使いを防止する行動を実践し、3R（＊）を推進し、低炭素社会・循環型社会の実現に貢献します。
　＊Reduce：発生抑制、Reuse：再使用、Recycle：再生使用
（5）本方針を具現化するため、環境目的・目標を設定し、計画的に実行し、結果の見える化により確実な推進をします。また、方針・目的・目標は定期的に見直すとともに、必要に応じて改定します。
（6）水豊かな豊川水系にある新城地域の生き物を大切にし、生物多様性の保全に取組みます。
（7）《山の湊》新城市の恵まれた自然と調和・融合し、「YOKOHAMA千年の杜」活動を通じ、育樹活動と植樹指導、苗木提供により、地域貢献と自然と人の共生を目指します。
（8）新城工場で働く全ての人が、本方針を理解し行動できるよう教育と啓発を行い周知徹底します。
（9）本方針は公開します。

2014年1月6日
横浜ゴム株式会社　新城工場
工場長　城川　隆

温室効果ガス排出量の削減

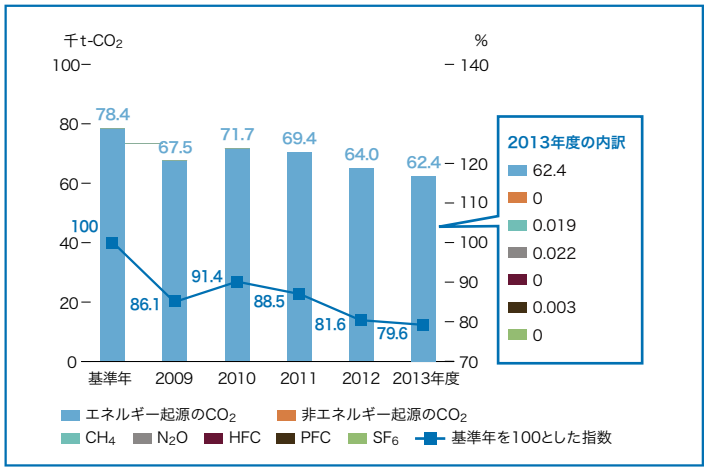
省エネ活動の推進

保温材の取り付け、照明のLED化等、高効率機器の採用による省エネや自主保全によるエアー洩れ修理、窓にエアーキャップを貼っての保温活動など工場全体活動による省エネ活動により、燃料・電力のムダを削減して温室効果ガスの削減を図っています。

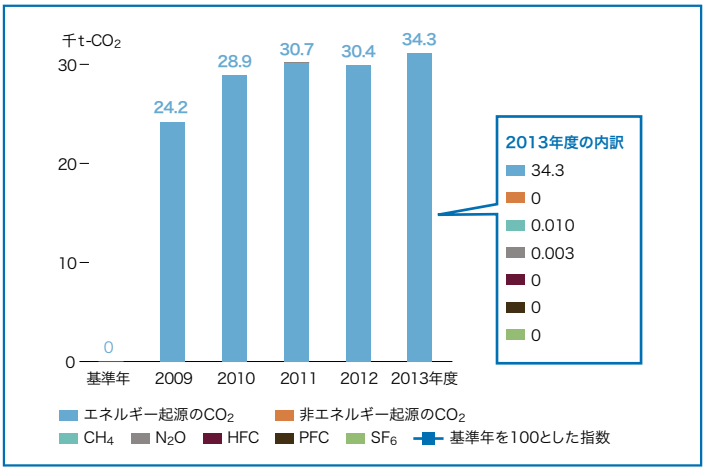
環境データ＆解説

■温室効果ガス排出量の削減

新城工場



新城南工場

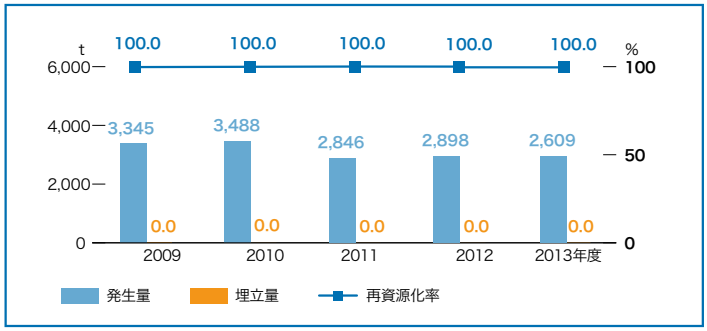


※基準年：1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF_6は1995年としています。
※温室効果ガス（GHG）の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

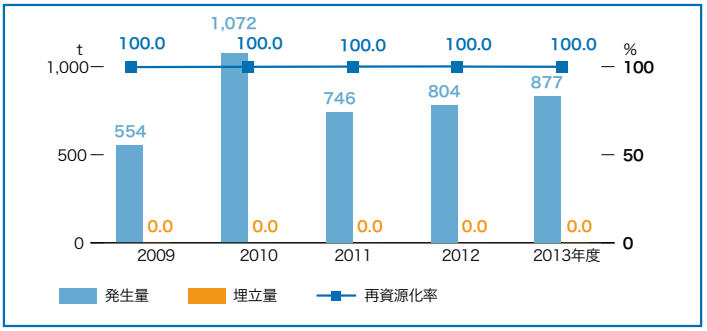
■資源の有効活用／廃棄物の削減

・廃棄物データ

新城工場



新城南工場

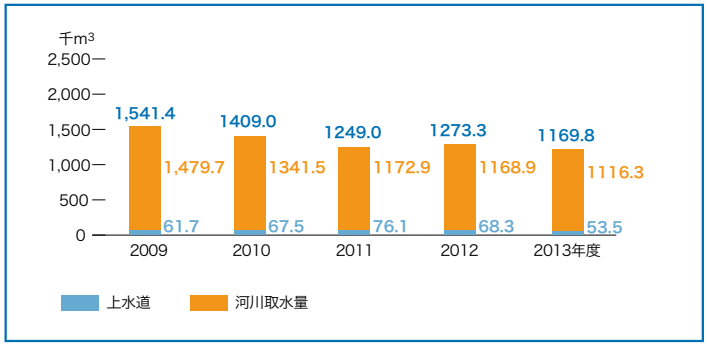


・水使用量

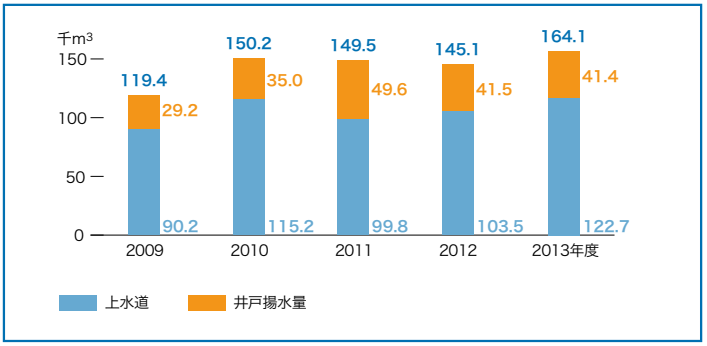
新城工場：上水道および豊川と豊川支流野田川より工業用水として取水しています。

新城南工場：上水道および井戸水を工場用水として取水しています。

新城工場



新城南工場



■水・大気・土壌への排出対策

・水質汚濁にかかわるデータ

新城工場：月2回20項目を愛知県、新城市の条例・協定に基づき、自主規制値を設定し、その範囲内で監視をしています。

新城工場

排水口	項目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
				平均値	最大値	最小値
No.1排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.4	7.6	7.2
	BOD濃度（mg/l）	20	14.0以下	2.6	6.7	1.1
	COD濃度（mg/l）	20	14.0以下	3.4	5.1	2.5
	SS濃度（mg/l）	20	14.0以下	1.8	3.0	1未満
	油分濃度（mg/l）	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満
No.2排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.6	7.8	7.5
	BOD濃度（mg/l）	20	14.0以下	2.3	4.7	0.9
	COD濃度（mg/l）	20	14.0以下	3.5	6.7	2.2
	SS濃度（mg/l）	20	14.0以下	1.2	2.0	1未満
	油分濃度（mg/l）	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満

※公害防止協定、愛知県条例に準拠

新城南工場：月1回20項目を愛知県、新城市の条例・協定に基づき、自主規制値を設定しその範囲内で監視をしています。

新城南工場

排水口	項目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
				平均値	最大値	最小値
No.1排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.7	8.0	7.6
	BOD濃度（mg/l）	20	14.0以下	3.6	7.9	1.2
	COD濃度（mg/l）	20	14.0以下	6.4	8.4	5.2
	SS濃度（mg/l）	20	14.0以下	1.3	2.0	1未満
	油分濃度（mg/l）	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満
No.2排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.6	7.9	7.3
	BOD濃度（mg/l）	20	14.0以下	3.5	6.0	1.7
	COD濃度（mg/l）	20	14.0以下	5.1	8.0	3.9
	SS濃度（mg/l）	20	14.0以下	1.7	2.0	1.0
	油分濃度（mg/l）	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満

※公害防止協定、愛知県条例に準拠

・排水先

	排水口	排水先（川名）
新城工場	No.1排水, No.2排水	野田川
新城南工場	No.1排水, No.2排水	黒田川

・大気汚染物質（NOx、SOx）

項目	NOx排出量（t/年）	SOx排出量（t/年）
新城工場	30	—
新城南工場	13	4

新城工場

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
				平均値	最大値	最小値
1号ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	0	0.02未満	0.02未満	0.01未満
	窒素酸化物濃度（ppm）	130	100	63	66	59
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.1	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満
2号ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	0	0.02未満	0.02未満	0.01
	窒素酸化物濃度（ppm）	130	100	70	72	67
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.1	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満
コージェネレーション	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	0	0.14未満	0.14未満	0.14未満
	窒素酸化物濃度（ppm）	100	80	66	77	50
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.05	0.05	0.0012	0.003	0.01未満
温水ボイラーA	窒素酸化物濃度（ppm）	150	120	33.5	36	31
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.1	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満
温水ボイラーB	窒素酸化物濃度（ppm）	150	120	32	33	30
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.1	0.1	0.0015	0.002	0.001
ディッピングマシン	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.003未満	0.003未満	0.003未満
	窒素酸化物濃度（ppm）	250	150	21	21	21
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.15	0.1	0.035	0.035	0.035

※大気汚染防止法、愛知県条例、新城市公害防止協定に準拠

新城南工場

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2012年度実績		
				平均値	最大値	最小値
1号高圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	休止中		
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150			
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1			
2号高圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定			
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150			
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1			
3号高圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.003	0.04	0.002
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	81.5	90	73
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1	0.0025	0.005	0.001未満
4号高圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.035	0.04	0.003
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	77	87	67
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1	0.003	0.004	0.002
5号高圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.035	0.04	0.03
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	77	88	66
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1	0.025	0.003	0.002
6号高圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.05	0.06	0.04
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	80.5	91	70
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1	0.011	0.02	0.002
1号低圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.01未満	0.01未満	0.01未満
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	73	73	73
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1	0.003	0.003	0.003
2号低圧ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.01未満	0.01未満	0.01未満
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	74	74	74
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.25	0.1	0.002	0.002	0.002
4t 1号ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.055	0.07	0.04
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	93.5	110	77
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.3	0.1	0.002	0.002	0.002
4t 2号ボイラー	硫黄酸化物排出量（m^3N/h）	第三条の規定	第三条の規定	0.06	0.07	0.05
	窒素酸化物濃度（ppm）	180	150	104	120	88
	ばいじん濃度（g/m^3N）	0.3	0.1	0.002	0.003	0.001

※大気汚染防止法、新城市公害防止協定に準拠、新城市との環境保全協定

環境

化学物質の管理状況についての報告（PRTR法への対応）

対象物質を6月に愛知県に報告しています。また、使用量の削減と代替品への転換を常に検討しています。

(単位: t／年)

新城工場

政令番号	対象化学物質	取扱量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 IV-4※4 有害性ランク（人）	年間換算排出量（人）	有害性ランク（生態）	年間換算排出量（生態）
80	キシレン	1.604	1.604	0.000	C	16.040	C	16.040
86	クレソール	5.098	0.000	0.073	B	0.000	C	0.000
132	コバルト及びその化合物	9.858	0.000	0.249	A	0.000	記載なし	0.000
155	N-(シクロヘキシルチオ)フタルイミド	45.129	0.000	0.209	D	0.000	B	0.000
189	N,N-ジシクロヘキシル−2-ベンソチアソールスルフェンアミド	25.437	0.000	0.090	D	0.000	B	0.000
205	1,3-ジフェニルグアニジン	81.813	0.000	0.000	A	0.000	C	0.000
258	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3,3,1,1(3,7)]デカン	47.999	0.000	0.090	C	0.000	D	0.000
372	N-(ターシヤリーブチル)-2-ベンソチアソールスルフェンアミド	248.539	0.000	1.609	B	0.000	A	0.000
392	ノルマル−ヘキサン	1.761	1.761	0.000	C	17.610	記載なし	0.000
53	エチルベンゼン	0.153	0.153	0.000	C	1.530	C	1.530
74	パラ−オクチルフエノール	0.454	0.000	0.113	記載なし	0.000	A	0.000
154	シクロヘキシルアミン	0.193	0.193	0.000	B	19.300	記載なし	0.000
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0.670	0.670	0.000	C	6.700	C	6.700
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	0.128	0.128	0.000	C	1.280	C	1.280
300	トルエン	0.673	0.673	0.000	B	67.300	C	6.730
333	ヒドラジン	0.591	0.591	0.000	A	591.000	B	59.100
411	ホルムアルデヒド	0.177	0.000	0.000	A	0.000	C	0.000
438	メチルナフタレン	0.238	0.001	0.000	A	1.000	C	0.010
	総合計	470.515	5.774	2.433	—	721.760	—	91.390

※1：PRTR対象化学物質の年間取扱量が、指定量以上の場合は届出対象
※2：排出量＝大気＋公共用水域＋土壌
※3：移動量=廃棄物−公共下水道
※4：排出量に有害性ランクを掛けて換算排出量を算定
安全性影響度評価の基準については、「国内生産拠点の安全性評価表」をご参照ください。
（http://www.yrc.co.jp/csr/data/pdf/16kokunaikyoten.pdf）

(単位: t／年)

新城南工場

政令番号	対象化学物質	取扱量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 V-5※4 有害性ランク（人）	年間換算排出量（人）	有害性ランク（生態）	年間換算排出量（生態）
86	クレソール	1.529	0.000	0.032	B	0.000	C	0.000
132	コバルト及びその化合物	2.966	0.000	0.107	A	0.000	記載なし	0.000
155	N-(シクロヘキシルチオ)フタルイミド	13.929	0.000	0.054	D	0.000	B	0.000
189	N,N-ジシクロヘキシル−2-ベンソチアソールスルフェンアミド	7.518	0.000	0.042	D	0.000	B	0.000
205	1,3-ジフェニルグアニジン	8.967	0.000	0.426	A	0.000	C	0.000
230	N-(1,3-ジメチルブチル)-N'-フェニル−パラ−フェニレンジアミン	236.202	0.000	5.687	D	0.000	B	0.000
258	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3,3,1,1(3,7)]デカン	2.239	0.000	0.059	C	0.000	D	0.000
372	N-(ターシヤリーブチル)-2-ベンソチアソールスルフェンアミド	51.186	0.000	0.322	B	0.000	A	0.000
438	メチルナフタレン	39.817	0.199	0.000	A	199.000	C	1.990
	総合計	364.353	0.199	6.729	—	199.000	—	1.990

※1：PRTR対象化学物質の年間取扱量が、指定量以上の場合は届出対象
※2：排出量＝大気＋公共用水域＋土壌
※3：移動量=廃棄物−公共下水道
※4：排出量に有害性ランクを掛けて換算排出量を算定
安全性影響度評価の基準については、「国内生産拠点の安全性評価表」をご参照ください。
（http://www.yrc.co.jp/csr/data/pdf/16kokunaikyoten.pdf）

公正な事業慣行

取引先との CSR 活動

取引先との強固な CSR 活動の一環として、第二回 CSR 勉強会を開催し、参加取引先 30 社に参加していただき、CSR 調達、人権（ハラスメント）、情報管理について法令遵守および危機管理を再確認しました。

消費者課題

消費者とのコミュニケーション

自動車産業品質マネジメントシステム規格（QMS）であるISO/TS16949認証をベースとした品質管理により、お客さまに信頼される品質の製品を提供しています。また、日本ならびに海外の自動車メーカーさま、販売会社さまや一般のお客さまの工場見学を通して、品質に対する取組みも紹介しています。

苦情などへの対応

お客さまから不具合情報を頂いた場合、現物を解析し、原因の究明をします。それら調査結果をいち早くお客さまへ報告します。原因が製造に起因する場合は、迅速に対策を行い、再発の防止に努めています。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

千年の杜活動

愛知県の水源地を守る森、静岡県の津波から命を守る防潮林の植樹など植樹支援に 18 回 114 人が参加し地域の方々と森作りに取り組みました。また 2013 年は 31,761 本の自ら育てた苗木を各地域の植樹に提供しています。

1月 7日	モリコリパーク植樹	植樹支援	2 人	苗木	120 本提供
1月 12日	モリコロパーク植樹	植樹支援	2 人	苗木	90 本提供
3月 8日	鳳来東小学校卒業記念植樹	植樹支援	6 人	苗木	45 本提供
3月 23日	掛川市沖之須防潮林植樹	植樹支援	21 人	苗木	1,532 本提供
3月 28日	モリコリパーク植樹	植樹支援	6 人	苗木	601 本提供
5月 2日	モリコリパーク植樹	植樹支援	1 人	苗木	421 本提供
5月 18日	岩手県大槌町植樹	植樹支援	8 人	苗木	560 本提供
5月 29日	モリコロパーク植樹	植樹支援	1 人	苗木	510 本提供
6月 2日	みんなで命を守る防潮森づくり植樹会	植樹支援	1 人		
6月 8日	宮城県岩沼市植樹祭	植樹支援	4 人		
8月 1日	岐阜県加子母植樹	植樹支援	2 人	苗木	160 本提供
8月 18日	岐阜県下呂市植樹	植樹支援	1 人	苗木	30 本提供
10月 6日	ガールスカウト愛知第 19 団	植樹支援	5 人	苗木	317 本提供
10月 20日	掛川市国安砂防林植樹	植樹支援	20 人	苗木	400 本提供
10月 30日	第 2 東名新城PA植樹	植樹支援	2 人		
11月 7日	東栄町水源の森植樹	植樹支援	2 人	苗木	200 本提供
11月 17日	秋のさくら祭り	育樹支援	24 人	苗木	1,034 本提供
11月 28日	東栄町水源の森植樹	植樹支援	6 人	苗木	30 本提供

生物多様性保全活動

工場ではタイヤを生産するのに大量の水を利用しています。「私たちは自然から水資源の恵みをもらうばかりでよいのだろうか?私たちに出来ることは何だろうか?」との思いで生物多様性調査を 2012 年から開始しました。2013 年には 24 回の調査を行い、今後も生物多様性保全活動を実施し、地域の水資源、生物を保全する活動を継続します。
また、愛知県が推進する新城設楽生態系ネットワーク協議会に参画し、行政・大学・NPO・他企業と協業で新城設楽地域の生物多様性に貢献していきます。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

地域社会とのかかわり

工場周辺地区区長および環境モニター工場見学・懇談会を 6 月 24 日に 12 人をお招きして開催しました。貴重なご意見を工場運営に生かし、さらに親しまれる工場づくりを致します。
新城市主催のしんしろクリーンフェスタに 161 人が参加し、市民の皆さまと共に地域美化活動を行いました。また延べ 889 人の工場従業員が毎月の工場周辺の清掃活動を実施しました。

11 月 17 日の秋のさくら祭りでは、どんぐりマスコット教室の開催と苗木 1,034 本をプレセントすることにより、市民の皆さまとふれあいの場を持つことが出来ました。
10 月 26 日、27 日の 2 日間、第10 回となる全日本ラリー選手権「新城ラリー 2013」が、今回会場を桜淵公園から県営新城総合公園に変更し、開催されました。新城工場は第 1 回から協賛しており、会場・コース設営やブース出展を続けています。観戦者は 2 日間で過去最高の 4 万 2 千人を記録し、YOKOHAMA ブースにも多数のお客さまが訪れました。